

# 私の住む街

47期生

## I テーマ設定の理由

私は自分の住んでいる街について小学校で少し習った他はほとんど知りません。それで改めて昔はどんな所だったのか知りたくなったからです。

そして特に会下山遺跡を調べようと思ったのは、どの本を見ても出ている「会下山遺跡の謎」というのに興味を持ったからです。

## II 研究方法

### (1) 図書館、市役所を利用した文献調査

- 会下山遺跡の出土品、遺構について
- その時代の周囲の様子、日本の様子

### (2) 実際に会下山に登っての現地調査

- 自分の目で見た遺跡の大きさや位置の様子

## III 研究内容

### 1. 会下山遺跡（えげやまいせき）

#### (1) 会下山遺跡とは

芦屋市の西側に位置するこの遺跡は、弥生時代中期から後期にかけて成り立っていた大変小さなムラだった。当時、30人～40人の人が住んでいたと思われ7ヶ所から住居跡が見つっている。標高160m～200mという眺望のよい大平山山頂部に点々とあり、平野部や大阪湾を一望することができる。

#### (2) 当時の周囲の様子と日本の様子 ～会下山遺跡の謎とは～

会下山ムラがつくられたのは前にも述べたとおり紀元前1世紀頃の弥生時代だった。その頃の日本は大陸から稲作が伝えられ、多くの水田が経営されている。水田は当然水が豊かで平らな土地の多い平野部に作られ、それに伴ってムラも平野に置かれる事になる。現に芦屋でも平野部にいくつかのムラが作られていたようだ。ではなぜ、この会下山ムラは山の上につくられたのだろうか。生産地帯から離れ、山に登らなければならなかった理由とは何なのか。この謎を出土品、遺構の内容から解いてみたいと思う。

### 2. 出土品

#### ～出土品とは～

土の中から発掘された、古代の遺物などのこと。

(1) 土器類

壺の形をしたものが比較的多く、次に鉢形、高杯形となっていく。高杯は大、小に分けられているのが特長である。

更に細かく見ていくと、表面がチョコレート色帯びたものが少し混ざっている。この土はこのあたりのものではなく河内地方から運ばれてきたものである事が分かった。

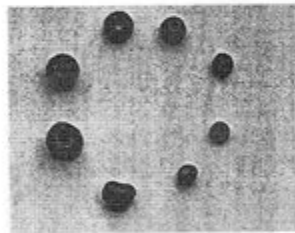


▲写真1 会下山遺跡出土品

(2) 石器類

とき石、火うち石、打製石やじり、石製投弾など色々見つかっているが、特に注目すべきは石錘というおもりのような物に代表される漁業用の道具が出土している点である。山頂のこのようなムラでなぜ海に関する道具が必要なのか。ここにも疑問が生じてくる。

(3) その他



▲写真2 ガラス小玉

色はコバルトに限られたガラス小玉が各住居跡から少量づつながら出土し、また供えものだと考えられるサルボウ貝や男女の性を表す面子類も見つかっている。

鉄器はヤリやくぎ、斧、ノミなどで石器と同様に漁業関係の道具、釣針などが出土している。

青銅器も少量ながら発見され、これらが共存しそれぞれが有効に利用されていたらしいことが分かる。

(4) 出土品まとめ

石包丁などの農耕具が見つからない事からこのムラの人々が農耕の民でなかった事は分かった。では山の民であったのか、というところでもなさそうだ。むしろ海の民としての性格を示すものがかなり見つかっている。しかし、そうすると新たな疑問がわいてくる。他地域の漁村遺跡ではほとんどの場合貝塚か、またはそれに類似したものを構成しているがこの会下山ではそのようなものは見つかっていない、つまりこの会下山ムラの人々は海に深い関係をもっていて、しかも漁業が生活のすべてではなかった、という事である。

◎会下山ムラが高地性であるのは海に関係が？

3. 遺構

～遺構とは～

古代の建築物や様式や配置などを知る手がかりとして、土地に残された柱の穴や石や土などの基壇のこと。

※会下山遺跡は右図のようにC、E、F、Qなどの地域に分けられ調査された。

(1) 全体の様子について

会下山で発見された住居跡は全部で7ヶ所で再利用された戸数も数えると、16戸にもなる。この会下山ムラの住居は再利用が多い事が分かるがそれは、山頂にムラがあるため強風などで壊されやすいからであろう。

(住居)

C、E、F、J、L、N  
x 計7

(祭祀場)

S、Q 計2

(墓地)

M 計1

(廃棄場)

U 計1

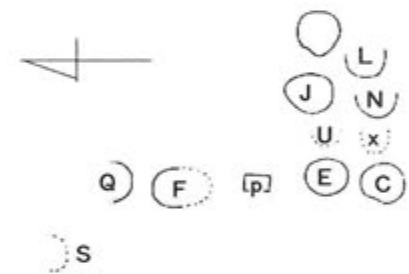
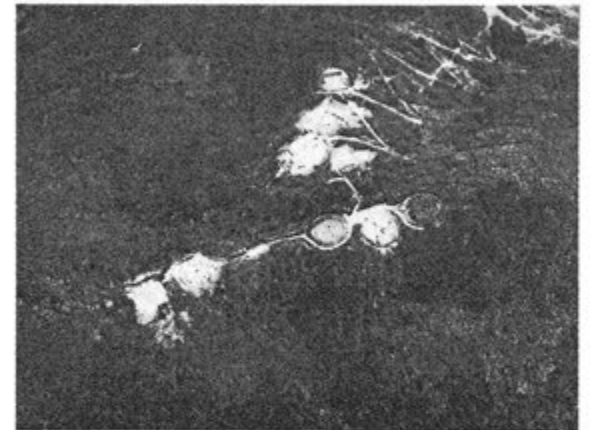
これらの他にも倉庫、泉、物置など、とても小さな物であったにしても色々な付属設備が完備してある。

—しかしこのような完備されたムラでありながら戸数の拡大もなく、古墳時代には続いていない。

(2) 倭国争乱の時代

弥生時代中期から後期にかけてというのは、稲作が大変盛んであったというだけでなく、ムラがクニへ更に大きくなろうとする争乱の時でもあった。それに伴って瀬戸内の各地域では防塞設備のようなものまでほどこしていたようである。

◎会下山ムラが高地性であるのは倭国争乱に関係が？



▲図1 上空から見た会下山遺跡

### (3) 首長について

会下山ムラの首長の家は図1のF住居であると思われる。QやS地区の祭祀場の次に高い位置にあり、他の住居には見られない色々な特色がある。

まず屋内に専用の炉をもち多数の柱によって特色な建築構造をしていた。

ところで炉についてであるが、ムラの南側には共用の炉、つまりかまどがあった。しかしF住居の人々がそこまで出掛け、他の人々と煮沸を共にしていたとは、距離的にも社会的にも考えられない。

しかし、F住居内にある炉は、煮沸にしては壁面の土の色が淡いようである。また容器を煮沸するときの火まわりを調節するものが何も無かったのである。もしかすると、このF住居に住む人々は私達が想像する以上に権力があって食べ物などは他の人に持ってこさせ、家の中にある炉はもっと別の目的に使っていたのかもしれない。

次にP地区の柵がある。この柵はまるでF住居と他の住居との差を強調するかのようにつくられている。またQやS地区の祭祀場の主宰者でもあったらしい。



▲写真4 住居跡群

### 4. 自分の目で見て

#### (1) 遺跡の大きさと様子

住居跡1つ1つの大きさはさほど大きくないが、それぞれが正に点々と広範囲にちらばっていて少し意外に思いました。

様子は、というと手入れも何もされておらず草がそこらじゅうにはえていてよく分からなかったけど住居跡のある所でもかなり急な斜面であったりして驚きました。

#### (2) 見はらしは最高

私が登った日はとても晴れていたもので、市街地や大阪湾はもちろんのこと、その先の泉大津市や岸和田市、泉佐野市などの陸の方までよく見えました。ここならば、平野部や海の様子をよく見ることができただろうと思います。

この事が何か会下山ムラの高地性集落（会下山のように高い土地に作られたムラ、集落のこと。）である理由と関係あるのではないのでしょうか。



▲図2 大阪湾

### 5. 会下山ムラの謎 ～高地性集落であったわけ～

#### ①津波などの自然災害からのがれるため

海の災害からのがれるための避難所としてであるなら低地の遺跡はそういう害のあとがあるはずだが実際には無い。墓や祭祀場まであり仮住まいではなく本格的であるのでそぐわない。

#### ②軍事的要因

海上、陸どちらも大変よく見えるのでそれらを何らかの理由で見張るのであれば絶好の地である。ところが、集落内の出土品の中には、石製投弾ぐらいしか武器はなく、その点からあてはまりにくい。

#### ③山村的要因

焼畑農業を中心とした狩猟農民を考えるが石包丁を代表とする農耕用具は発見されておらずはっきりとはしない。

#### ④政治的要因

前にも述べたとおりこの会下山ムラの成っていたのは、倭政権の誕生に伴う倭国争乱の時代であったので長の命を守るため、低地のムラのごく限られた人々のみが山に登り身をひそめていたのかもしれない。(?)

#### —私の考え—

私は②の軍事的な意味があって人々はこの会下山に登ったのだと思います。

会下山遺跡は本当に眺めのよい所でした。こんな高い所へ登って人は何をするのでしょうか。空気がよいのでゆっくり休養でもとっていたのでしょうか。いいえ、そんな悠長な事をしている場合ではありません。争乱の時代です。人々は山の上から敵がせめてくるかどうかを見張っていたのです。本には武器が少ないようだ、と書いてありましたが、ここでの役割はあくまでも見張りであって敵がせめてくるようであればすぐ低地にいる仲間に分らせばよいのです。

これなら、食料も低地から仲間にも送ってもらえばよく、米などを貯えておく倉庫が小規模である理由も分かります。

つまり低地のあるムラの一人の権力者が、自分の一族や家来を連れムラを守るため山に登った、という事です。



▲写真5 復元されたJ地区の高床式倉庫

#### IV 結 論

会下山遺跡はなぜ高地性の集落であったのか？

—この謎の答えは決してみつかるとは思いませんが、私個人の結論は軍事的な要因でこのような特殊な集落を作っていた、という事です。

弥生時代の中期頃、ある平野部のムラの一人の権力者が自分の一族や家来を連れてこの山に登りました。目的は周りの海や陸から敵が、自分達のムラを攻めてくるかを見張ることでした。やがて社会は秩序をとりもどし、このようなムラの必要性が無くなって人々は生活の便のよい平野へ下りていったのです。

#### V 総 括

今回の自由研究は現地調査や観察のできるテーマという事で、それでは今、自分が住む街について、などと始めはとても安易な気持ちで進めていました。しかし、資料を読んでゆくとそんな簡単な事ではなく、特にどの部分を中心に調べるかという事についてはかなり迷いました。会下山遺跡について調べよう、と決めてからもつい資料に頼りすぎて、自分の考えというものがなかなかまとまらず困りました。しかし実際に自分の目で遺跡の様子を見てからは色々な事を自分なりに想像する事ができ、特にこういう昔の事となると、これはこうだというはっきりとした答え、というものはないのですべて自由に想像することができ面白かったです。

#### ・参考文献

- ・芦屋文化振興財団（1993）「あしや子ども風土記 歴史さんぽ」pp. 36-41
- ・芦屋市立美術博物館（1992）「弥生争乱」旭成社 pp. 2-6
- ・芦屋市立美術博物館（1992）「芦屋の歴史と文化財」旭成社 pp. 8-11
- ・「会下山遺跡」
- ・「特集 芦屋歴史紀行」